

かつて子どもが小中学生だった頃、我が家では夏休みが始まると居間の片隅が実験室に変貌した。テーブルの上には顕微鏡やビーカー、メスシリンダー、注射器、薬品などが並び、壁には実験の途中経過が張り出された。ここは自由研究を行うための季節限定の空間であった。

スーパードで見かけた硬水。水が硬いとは何かという疑問から、水道水のような軟水と売られている硬水とを比較した。硬水を蒸発させると白い粉末が残る。そこで、軟水、硬水、軟水にその白い粉末を入れた液体を用意し、それぞれに粉石けんを入れて振ると、軟水は泡が立つのに、硬水と粉末を入れた軟水は泡がたたない。からだにはどう影響するか。キンギョを硬水の中で泳がせると活動量が激増し、泳ぐというよりもトビウオの如く跳ねるようになる。さて、これはなぜ。カルシウムとマグネシウムの働きなのか。

塩水に物を入れると浮くことは多くの人が知っている。本当に何でも浮くのかという疑問から、さまざまな食材を試してみると浮くが、必ずしも軽いものが浮かんだのではないこともわかった。では、同じ白い粉末の砂糖ならどうだろう。いろいろな濃度の砂糖水をつくって物を浮かせてみた。浮いた。塩水だけの特徴ではないのだ。では、なぜ浮くのか。浮くとはどういうことなのか。

日常生活を少し客観的に見つめるだけで、当然と思えたことにも疑問が湧く。その疑問を解き明かすため、自分で試してみるのには効果的だ。だがすべてを試せるわけではない。そのような時、やはり図書館が味方になってくれる。本を調べ文献を検索すると答えが出てくる。でも、その答えからさらに次の疑問が生まれる。知の連鎖だ。その連鎖をつなげていく手助けができれば、図書館としては本望だろう。さて今、何か疑問を感じていることはないだろうか。

ニューフェイス 2012

この春、図書館のスタッフに加わった新メンバーの自己紹介です。どうぞよろしくをお願いします。

初めまして、四月から図書館に勤めることになりました、古庄（ふるしょう）ももです。大学時代、文学部ドイツ学科でほぼそとではありますが音楽学を学んできました。実は卒論の参考文献でも国立音楽大学附属図書館にお世話になったことがあります。先日は基礎ゼミの講義に参加させていただきましたが、文学部から学ぶ音楽学とは視点が違ってとても新鮮でした。

大学では他に二年生から司書課程を履修していました。正直なところ、当時は司書になって図書館で働く気は微塵もなく、ただ出身大学の図書館の書庫に入ってみたいという安易な理由で始めたものでした。それが縁あって音大の図書館に勤めることとなり、ここが図らずも私が大学で学んできた音楽学と図書館学、少しのドイツ語を全て活かせるほぼ唯一の職場であるということに気づきました。こんなにマニアックな組み合わせの学問を活か

せる仕事に就けたことは本当にラッキーだったと思います。

文章を書くとしても堅くなってしまうのですが、実際は違います。出かけること、食べることが好きで、雑誌や映画などで行きたい場所を見つけてはぶらぶらと散策します。この春にも卒業旅行と称して五回も国内旅行に行ってきました。埼玉在住の私にとって玉川上水への通勤は毎朝小旅行をしているような気分です。このあたりのおいしいお店、景色のきれいな場所など、おすすめがあれば是非教えてください。

まだまだ知らないことが多く、今は勉強の毎日です。しばらくはカウンターでおどおどしている姿を見かけると思いますが、どうぞ気軽に声を掛けてください。一日も早く音楽を学ぶみなさんをサポートできる図書館員になれるよう頑張りますので、よろしくお願いします。

♪♪♪ 古庄 もも (ふるしょうもも) ♪♪♪